

私は IC の授業を通して様々な成功体験を積むことができた。IC の生徒は明るくて素直な生徒が多く、人の成功を心から喜び、失敗をあたたかく受け入れてくれる気概があるため、挑戦することに対して恐れる必要がなかった。私は内向的な性格故、初めはやりたいことがあっても素直にやりたいといえなかったのだが、そんな空気を察してくれたクラスメイトが優しく背中を押してくれる場面が多くあり、最終的には自ら授業中の発言や行事への積極的参加ができるようになった。また IC で設けられている様々な機会にも挑戦した。特に、2 年次のニュージーランド短期留学や 3 年次の関西高校模擬国連大会ではそれぞれ深い学びがあった。

私の学年は新型コロナウイルスの影響により留学が 1 年延期になったが、その 1 年間は英語力をつけニュージーランドについて知る有意義な時間となった。満を持して行った現地では、運が悪く 100 年に一度と言われる大災害に見舞われ、3 日間の停電や断水、インターネット回線の遮断、また約 1 週間の休校に苦しめられた。初めての海外にも関わらず人生最大規模の災害にあい、普通であれば不安になるところだが、心優しいホストファミリーや先生方をはじめとした周りの方々のサポートにより、思い出深い経験となった。復旧を待っている間はホストファミリーと夜にキャンドルの灯のもと UNO で遊んだり、バーベキューをしたりして困難な状況でも最大限その場を楽しんだ。馬が屋根に乗るほどの被害があった大災害だったと聞いたが、生徒全員が無事日本に帰って来れて本当に良かったと思うし、サポートしてくれた方々には感謝してもしきれない。

3 年次の関西高校模擬国連大会では、議長を務め三日間にわたる英語の会議の議事進行をした。中学校まではクラスリーダー程度の役割をすることはあったものの、他校の生徒も含めたあれほどの人数を仕切る機会には恵まれなかったため、非常に刺激的な挑戦だった。2 年生の時から放課後や休み時間を使いみんなで準備を進めてきて、IC コースで学んだ集大成として京都国際会館で本番を行った。当日は、全て予定通りに進行ができたわけではないが、3 日目の一番最後の会議では、それまでのミスを修正して自分の中での完璧に限りなく近い形で締めくくることができ、終了の合図であるガベルを叩き終わった直後には満足感と達成感が押し寄せた。

大きなイベントをあげるとこの 2 つだが、インターネットを通じて海外の生徒と交流したり、茶道の授業に励み最終的には御免状を頂いたりなど、IC コースでの学びを通して大小様々な成功体験をたくさん重ねることができた。そのおかげで自信がついたことから、更なる挑戦に対する勇気が持てたし、これからもこの経験は私を支えてくれるに違いない。IC の生徒として学んだ英語力やリーダーシップ、挑戦する勇気、国際的な視点からものを見る力を活かして今後の人生を歩んでいきたい。